

さあ、胃がん検診（バリウム） を受けに行こう！

バリウムの検査は大変だと思いませんか？
実は、少しずつ改良が進んでいるんです

飲むバリウムの量も
少なくなっています

検査は5～6分で終わります

30年前



約300cc

現在



約130cc
(乳酸菌飲料約2本分)



※受付、検査までお待ちいただくことがあります

より細かく胃の中を見ることが
できるようになりました

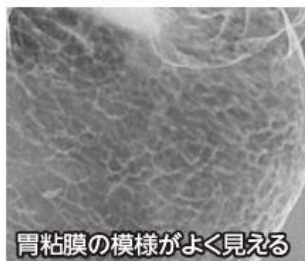
わたしたちが検査を担当します

バリウムや撮影装置の改良が進み、
以前より微細な変化を読み取ることが
できるようになりました。

30年前のバリウム



現在のバリウム



胃粘膜の様子がよく見える



慣れない検査に緊張するかと思いますが
スタッフがサポートいたします
お気軽にお声がけください



胃がんは2番目に多くの方がかかるがんです

肺がんや乳がんよりも多くの方がかかるがん、それが胃がんです。
ちなみに、ピロリ菌を除菌しても胃がんになる可能性はゼロにはなりません。

	1位	2位	3位	4位	5位
部位	大腸	胃	肺	乳房	前立腺

国立がん研究センター がん情報サービス 最新がん統計 部位別罹患数 2018年男女計

宮城県対がん協会は県内で 最も実績のある医療機関です

2019年度	宮城県 対がん協会	全国平均
がん発見率*	0.17%	0.11%

約1.5倍

宮城県対がん協会では県内のすべての自治体の胃がん検診を受託しており、年間で約15万人の胃がん検診を行っています。(2019年度)

がん発見の精度も高く、全国平均を大きく上回っています。

*がん発見率:受診者のうち、がんが発見された人の割合
※全国平均は日本対がん協会全国支部の成績
(X線検査・内視鏡検査の合計)

検診会場ではコロナ感染対策に取り組んでいます 安心してお越しください



マスク着用



飛沫防止



室内の換気



定期消毒

胃部X線検査（バリウム）は胃がんの死亡率を減少させることが科学的に認められた検査方法です

(公財) 宮城県対がん協会